

佳作

つばめ

宮城県 仙台市立岩切小学校一年 高橋 舞衣

まいとしはるになると、わたしのいえのまわりには、つばめがたくさんとんできます。よるになると、一わのつばめが、おとまりしにきていました。

あるひ、がっこうからかえるとげんかんでママが「まい、うえをみて。」

といいました。わたしがうえをみると、かべにどろのかたまりがくっついていました。

「なんだこれ。」

とわたしがいったら

「つばめのすだよ。」

とママがいました。みると二わのつばめが、くちでどろをはこんですをつくっていました。すごいなあとおもいました。

だんだんすができてきたころ、あそとにでてみると、げんかんにどろのかたまりが、おちていま

た。はんにんはカラスだとわかりました。わたしはカラスが、きらいになりました。それでもあきらめずにすをつくりつづけて、やっとかんせいしました。そのあとも、なんどもカラスがくるので、パパとママがさくせんをたてました。すのちかくに、ぼうをかけて、たまごをまもるさくせんです。さくせんは、だいせいこう。ぶじに五わのあかちゃんが、うまれました。まいにちがっこうからかえってあかちゃんをみるのがたのしみになりました。

いつものように、がっこうからかえると、一わいがないことに気づきました。そしてまたつぎのひ、ぜんぶのあかちゃんがいなくなっていました。

「ママ、つばめがいよいよ。」

とあわてていうと

「みんなとびたつていったんだよ。」

とママがいました。とつぜんおわかれになってさびしかったけど、ぶじにとんでいけたのをしつてうれしくもなりました。とんだこともないのに、ゆうきをだしてとんでいったあかちゃんつばめたちは、すごいなあとおもいました。

またらいねんもげんきにもどってきてね。